

株主・投資家の皆様へ (第79期報告書)

平成29年4月1日～平成30年3月31日



We aim for logistics professionals.

株式会社 **エスライン**

証券コード：9078

東証・名証第一部銘柄指定！



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は平成30年3月31日をもって、第79期事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）を終了いたしましたので、ここに報告書をお届けし、事業の概況等につきまして、次のとおりご報告申し上げます。

平成30年6月



代表取締役社長
山口嘉彦

営業の概況

当社グループの主要な事業であります物流関連業界におきましては、宅配業界の運賃値上げや物量抑制の実施が、物流業界全体に影響したことにより、運賃値上げに向けた動きが荷主企業にも浸透したために、運送収入は増加傾向で推移いたしました。しかしながら、労働力不足、特にドライバーの人手不足はますます深刻化し、新規採用や現有ドライバーの雇用確保のための人件費や、輸

送力確保のための備車費・外部委託費・支払中継料が増加し、さらには燃料単価の上昇による燃料費の増加等もあって、当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、2年目となります中期経営計画（スローガン：「エスラインブランドの確立に向けて」）の達成に向け、各施策を着実に実行し、企業価値の向上に向けて、

グループ一丸となって取り組んでまいりました。

当社は、昨年3月10日、会社設立70周年にあたる記念すべき日に東京証券取引所市場第二部に上場を果たし、その1年後の本年3月20日には東京証券取引所および名古屋証券取引所市場第一部銘柄に指定されました。これもひとえに株主の皆様をはじめ、関係者の皆様の温かいご支援、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

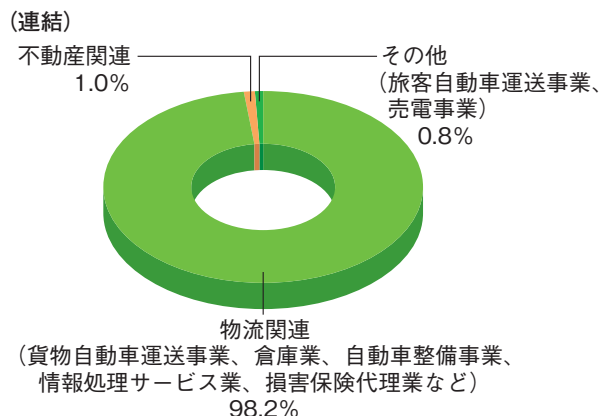
このような状況下での、当連結会計年度の業績は、営業収益468億58百万円（前期比5.4%増）、営業利益14億55百万円（前期比2.0%増）、経常利益15億25百万円（前期比0.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益9億86百万円（前期比19.4%減）となりました。

対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、世界経済の回復基調と企業業績の拡大、雇用情勢の改善を背景に、景気は緩やかな成長が続き、国内貨物輸送量は前年を上回ると思われます。しかしながら、物流関連業界全体の運賃の改定・上昇に伴う、外部委託先や中継会社からの値上げ要請への対応や、労働力不足や労働時間短縮を図るための労働環境の改善への取り組み、安全運転や環境に対応した車両の購入や、安全装置の導入等、コスト増加の要因が見込まれ、当社を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続くことが予想されます。

このような環境のなか、当社グループでは、平成28年度を初年度とする3ヶ年の中期経営計画の最終年度を迎えます。中期経営計画として策定した具体的な行動計画に基づき、以下の取り組みを行ってまいります。

売上構成比



- ①輸送サービス部門では、人員の安定確保と輸送供給力を確保するために、適正運賃への改定や諸料金の収受に向けた交渉を継続して取り組んでまいります。また、「総合配車センター」の体制再整備を行い、当初計画したフォワーダー事業に再度取り組んでまいります。さらに本年10月に関西地区の特積み拠点の強化と配送網の充実、増床による営業力強化を目指して、(株)エスラインギフ西淀川支店（大阪市西淀川区）を、同地区で新築移転して、収入拡大に取り組んでまいります。
- ②物流サービス部門では、当社が得意とするアパレル関連の、商品保管・物流加工・配送までを請け負う、一貫物流サービスの獲得に向けた営業活動を進めてまいります。併せて本年11月に新築移転予定の(株)スワロー急送の本社物流セン

ターが、安定した収入と利益を生み出すために「物流サービスWG」とともに顧客獲得に向けて取り組んでまいります。また、本年10月に稼働する(株)エスラインギフ豊田第2センターにおいても、豊田第1センター同様、自動車関連部品等の保管・配送業務を行い収入増に努めてまいります。

- ③ホームサービス部門では、関東・中部地区に留まっているツーマン配送での宅内配送エリアを関西・九州地区にも拡大展開してまいります。また、引越しブランドであります「スワロー引越便」の事業化に向けて、積極的なPR活動と営業活動を行うとともに、社内では、情報公開サイト「SL-PORTAL」を活用し、引越しやツーマン配送時の作業手順や留意点等の動画配信や、「引越研修センター」での実技訓練を重ねること等により、作業レベルの質的向上を図ってまいります。
- ④新たなサービスや作業時間短縮に向けた情報システムの構築を進めてまいります。「スワロー引越便」の拡大・事業化を目指して、引越しの見積りから配送管理や請求・回収管理

まで一連の引越業務を支援する情報システムの構築や、現場作業の早期作業終了、幹線車両の早期出発を図るために、当日の輸送（集荷）貨物量を早期に収集して、幹線車両への適切な配車指示や、車両ごとの積載スペースの調整を可能にする「輸送貨物量の見える化」を実現する情報システム等を構築してまいります。

安全面では、前期より試験運用してまいりました眠気検知システムを(株)エスラインギフの全ての幹線便に導入いたしました。このシステムは乗務員の眠気状態を事前に検知した場合、本人および運行管理者に通知するとともに、日々蓄積したデータにより乗務員個々の運転特性を分析して、最適な運行指示を実現するもので、このシステムの活用により、乗務員が安全で安心して運行できる環境を構築してまいります。

これらの実行計画を着実に進めることにより、経営目標の達成と企業価値の向上に取り組んでまいります。

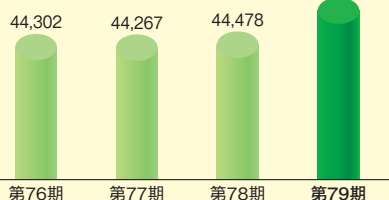
財務ハイライト

営業収益

468億58百万円

前期比5.4%

(単位：百万円)



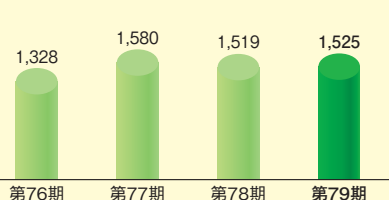
過去最高

経常利益

15億25百万円

前期比0.4%

(単位：百万円)

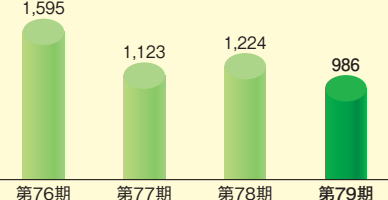


親会社株主に帰属する当期純利益

9億86百万円

前期比△19.4%

(単位：百万円)



物流関連事業

貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業など

物流関連事業の主な事業収益は、貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業等があります。

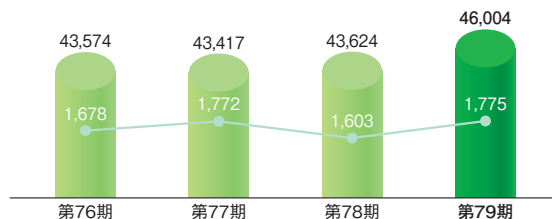
トラックによる企業間輸送を主とする輸送サービス部門では、適正な水準への運賃改定と諸料金の収受に向けた営業活動を積極的に進めてまいりました。運賃改定の取り組みにつきましては、全荷主企業を対象に積極的に取り組んだ結果、これまでに約45%のお客様にご理解いただき、5億61百万円の収入増となりました。また、貨物輸送量増加への取り組みとしては、港湾地区での海貨貨物や、量販店・大手小売店への一般消費財の貸切輸送を取り込んだ結果、4億64百万円の収入増となりました。一方、フォワーダー事業立ち上げのために開設した「総合配車センター」(株)エスラインギフの中部本部内)は体制が整わず、十分な成果を得ることが出来ませんでした。また、輸送体制面では、長距離運行における労働時間短縮とドライバー不足の課題解決のために、岐阜から九州への週末の下り便の2運行をJRコンテナに切り換えるモーダルシフトを昨年末から試験的に開始いたしました。

商品保管や物流加工を行う物流サービス部門では、(株)エスラインギフおよび(株)スリーエス物流で

460億4百万円

前期比5.5%

営業収益 セグメント利益 (単位: 百万円)



それぞれ大手荷主が撤退したことにより大幅な減収を見込んでいました。この減収分を補うために、大手流通グループの専門店や量販店向けアパレル関連商品の物流加工業務の受注を増やしたり、カーディーラーとタイヤアップした、自家用車の夏・冬タイヤの保管とタイヤ入替時の配送サービスを岐阜地区で開始しましたが、前期と比べてわずかの減収となりました。

大型商品等の個人宅配と引越しを行うホームサービス部門では、お取引のある家電量販店での白物家電等の販売が好調であったことから、配送および設置業務の増加に加えて、配送料金の値上げや、大型商品貨物の倉庫から配送センターまで



(株)エスラインヒダで開始した「タイヤ保管・配送サービス」



(株)エスラインギフで導入したユニック車

の幹線輸送業務を受託したこと等により増収となりました。また、(株)エスラインギフ家電物流事業部におきまして、大型商品の取り扱い品目を増やすためにユニック車を導入し、さまざまな配送形態への対応にも取り組んでまいりました。

また、引越しサービスの拡大につきましては、一般家庭の引越しにとどまらず、引越し業者との協同輸送や、輸送サービス事業で、お取引のある企業等の社員の転勤に伴う単身者や家族の引越し、さらには、工場や事務所の移転・移設作業等の企業向け引越しにも注力してまいりました。この結果、引越しサービス全体で2億40百万円の収入となりました。また今期から、物流サービス開発センターでは、引越しや大型商品の設置サービスに関する料金見積もりや、配送・設置作業の実技訓練、接客マナーの習得等を目的とした研修施設



新たに開設した
引越研修センター内部

「引越研修センター」を(株)エスラインギフ内に開設し、当社グループ各社から選抜された営業マンや配送スタッフを集めた講習会を実施し、作業品質の維持向上にも努めてまいりました。

さらに、輸送サービス・物流サービス・ホームサービス・引越しサービスの各サービス部門の

営業拡大を図るために、営業情報や現場作業の中で得た知識・経験値を全社員で共有するための情報公開サイト「SL-PORTAL」を開設し、情報発信に努めてまいりました。

一方、費用面では人材確保のための人件費や、取扱い貨物量の増加による備車費・外部委託費や、燃料単価上昇による燃料費の増加、前期からの設備投資による減価償却費等の増加、また、人事情報を一元管理する「人事管理システム」、資金運用や支払業務を一元管理する「資金運用システム」、「債務システム」を導入し、エスライングループの組織体制や事務作業手順の統合・再編を進めてまいりました。

この結果、物流関連事業の営業収益は460億4百万円（前期比5.5%増）となりました。

不動産関連事業

不動産賃貸業

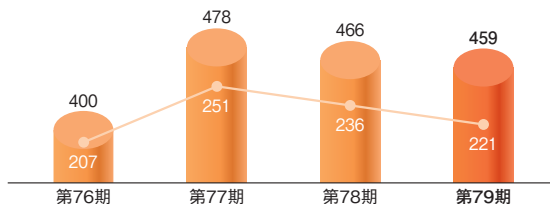
不動産関連事業におきましては、当社グループにて保有している不動産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでまいりました。今期は賃貸物件の増減はありませんでしたが、一部の物件について賃料見直し等があり減収減益となりました。

この結果、不動産関連事業の営業収益は4億59百万円（前期比1.6%減）となりました。

4億59百万円

前期比△1.6%

営業収益 セグメント利益（単位：百万円）



その他事業

旅客自動車運送事業、売電事業

主に、旅客自動車運送事業および売電事業を営んでおります。旅客自動車運送事業におきましては、岐阜市内の高校や近隣の大学の通学バスおよび冠婚葬祭時の送迎バス、さらには競輪場のファンバス等、地元に着着した運行業務に取り組んでまいりました。今期は競輪場のファンバスの運行増により、増収となりましたが、人件費・修繕費の増加に加えて、車両購入による減価償却費が増加したことにより、増収減益となりました。

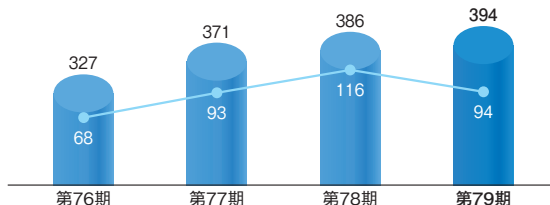
また、売電事業におきましては、㈱エスライニングの名古屋第1・第2センター、豊橋支店、豊田支店、豊田センターおよび㈱スリーエス物流の本社第1センターの計6か所で発電を行っております。（総発電量1,333.96kW）

この結果、その他事業の営業収益は3億94百万円（前期比2.0%増）となりました。

3億94百万円

前期比2.0%

営業収益 セグメント利益（単位：百万円）



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第79期 平成30年3月31日現在	第78期 平成29年3月31日現在
資産の部		
流動資産	11,261	9,501
固定資産	22,793	23,316
有形固定資産	20,374	20,760
無形固定資産	96	91
投資その他の資産	2,321	2,464
資産合計	34,054	32,818
負債の部		
流動負債	7,945	7,380
固定負債	6,003	6,784
負債合計	13,948	14,164
純資産の部		
株主資本	20,072	18,722
その他の包括利益累計額	32	△69
純資産合計	20,105	18,653
負債純資産合計	34,054	32,818

ポイント

■資産

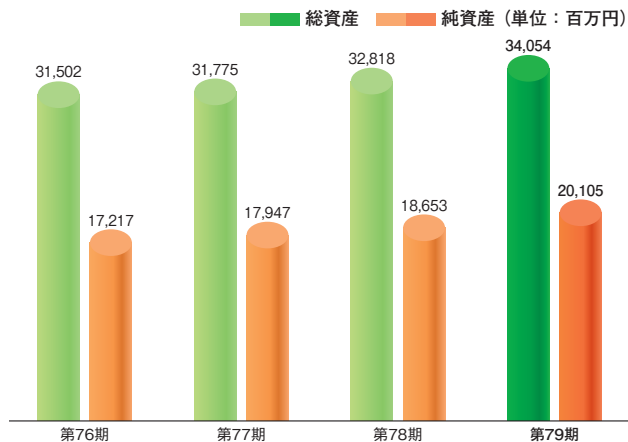
連結資産合計は340億54百万円（前連結会計年度末328億18百万円）となり、前連結会計年度末比12億36百万円増加しております。この主な要因は、現金及び預金と営業未収入金の増加であります。

■負債

連結負債合計は139億48百万円（前連結会計年度末141億64百万円）となり、前連結会計年度末比2億15百万円減少しております。この主な要因は、有利子負債の減少と営業未払金の増加であります。

■純資産

連結純資産合計は201億5百万円（前連結会計年度末186億53百万円）となり、前連結会計年度末比14億52百万円増加しております。この主な要因は、利益剰余金の増加と増資によるものであります。



連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第79期 平成29年4月 1 日から 平成30年3月31日まで	第78期 平成28年4月 1 日から 平成29年3月31日まで
営業収益	46,858	44,478
営業原価	43,751	41,397
営業総利益	3,107	3,080
販売費及び一般管理費	1,652	1,654
営業利益	1,455	1,426
営業外収益	105	121
営業外費用	35	28
経常利益	1,525	1,519
特別利益	51	160
特別損失	40	18
税金等調整前当期純利益	1,536	1,662
法人税等	550	432
当期純利益	986	1,229
非支配株主に帰属する当期純利益	—	4
親会社株主に帰属する当期純利益	986	1,224

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第79期 平成29年4月 1 日から 平成30年3月31日まで	第78期 平成28年4月 1 日から 平成29年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	2,773	2,021
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,377	△2,114
財務活動による キャッシュ・フロー	△350	4
現金及び現金同等物に 係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物 の増減額	1,046	△88
現金及び現金同等物 の期首残高	2,963	3,051
現金及び現金同等物 の期末残高	4,009	2,963

ポイント

■営業活動によるキャッシュ・フロー

27億73百万円の収入（前年同期は20億21百万円の収入）となりました。この主な収入は、税金等調整前当期純利益と減価償却費の計上であります。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

13億77百万円の支出（前年同期は21億14百万円の支出）となりました。この主な支出は、固定資産の取得であります。

■財務活動によるキャッシュ・フロー

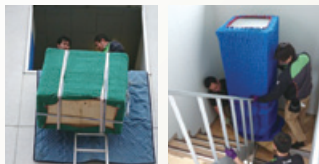
3億50百万円の支出（前年同期は4百万円の収入）となりました。この主な支出は借入金の返済と配当金の支払によるもので、主な収入は増資によるものであります。

この一年の主な出来事

品質向上活動

引越研修センターを開設しました。

引越しサービスWGで取り組んでいる品質向上策の一環として、本社隣接地に、「引越研修センター」を開設しました。今期は当社グループ各社から選抜された社員を対象に研修会を実施しましたが、今後は対象者を拡大しながら、当社グループ社員の引越し技術の向上と均一化を図り、お客様から厚い信頼を頂けるよう取り組んでまいります。



エスライングループ

広報活動

オート三輪車が 全国を駆け巡りました。

会社設立70周年記念事業として、全国の皆様に、昭和40年～50年代に活躍した「オート三輪トラック」をご披露するため、1ヶ月かけて、岐阜地区、名古屋・一宮地区、大阪地区、東京地区で「オート三輪トラック」を走らせました。



浅草にて



お台場にて



愛知県庁前にて



大阪城にて

(株)エスラインギフ

2017

4

5

5/9
決算発表

6

6/29
定時株主総会

7

8

8/9
第1四半期
決算発表

9

営業情報

大型オフィスビル引越しを 受託しました。

名古屋市内の5ヶ所のビルに点在していたオフィス、名古屋駅前に新築されたビルへ移転・集約されるお客様の引越しを受託しました(当社グループの社員延べ335名、車両延べ89台で作業)。これからもこのような大型案件が受託できるよう、引越しサービス事業の拡大に努めてまいります。



エスライングループ

IR活動

決算説明会を開催しました。

前期に引き続き、2017年5月(参加者21名)および11月(参加者20名)に決算説明会を開催しました。ここでは中期経営計画の進捗状況や決算数値の見通し、営業面での施策等について説明を行いました。



(株)エスライン

IR活動

名証IRエキスポに参加しました。

12年目の参加となった昨年は、ブースでのミニ説明会やアンケートに加え、初めて「プレミアム説明会」を開催しました。ここでは当社グループの主力である輸送・物流・ホームサービスの内容をはじめ、注力している若手ドライバーの育成や安全投資等について説明を行いました。



(株)エスライン

営業情報

ユニック車を増車しました。

家電・家具・工場移転等で引き合いの多い「ユニック車」(クレーン付トラック)を3台増車しました。これにより、グループ全体でユニック車は9台(株エスラインギフ7台、株エスライン各務原2台)となり、ホームサービス事業のさらなる拡大に貢献するものと期待しています。



(株)エスラインギフ・(株)エスライン各務原

福利厚生

「新はつらつ職場づくり宣言」を採択しました。

岐阜労働局で展開されている「新はつらつ職場づくり推進事業」に参画し、働き方改革を進め、健康・快適で仕事のしやすい職場づくりを目指すため、「新はつらつ職場づくり宣言」を採択しました。今後は、労働時間の短縮や、介護・育児休業の取得推進、社員の健康管理等になお一層力を注いでいきます。



(株)エスラインギフ

施設の新設

豊田第2センターを新築します。

愛知県豊田地区での旺盛な物流需要にお応えるため、当地区3つ目の物流施設となる豊田第2センターの建築を開始しました。
(A棟:2階建・延床面積4,081.38㎡、2018年8月オープン予定、
B棟:2階建・延床面積1,398.41㎡、2018年10月オープン予定)



(株)エスラインギフ

施設の移転

西淀川支店を新築移転します。

老朽化および施設の狭隘に伴い、新築移転を行うため、現エスラインギフ西淀川支店の近隣に、新支店の建築を開始しました。
(2階建・延床面積2,746.7㎡、2018年10月オープン予定)



(株)エスラインギフ

施設の改修

本社物流センターをリニューアルしました。

営業倉庫・常温倉庫・通関・物流加工等物流サービスの拠点である本社物流センターをリニューアルしました。本社地区で最も大きい施設のデザインを一新し、近隣を走るJR東海道線やバイパス道路からも一目で分かる施設へと生まれ変わりました。



(株)エスラインギフ

10

11

12

2018

1

2

3

11/9
第2四半期
決算発表

2/9
第3四半期
決算発表

施設の建替

鳥栖支店がリニューアルしました。

鳥栖トラックターミナル内にあるエスライン九州鳥栖支店について、老朽化に伴い施設の建替が行われ、2017年10月にリニューアルオープンしました。
(平屋建・延床面積1,520.79㎡)



(株)エスライン九州

施設の新設

新本社・物流センターを新築します。

岐阜市内2ヶ所に分かれていた(株)スワロー急送の本社および物流センターを1ヶ所に集約するとともに、新しい業務の開拓と質の高い物流加工業務を行うことができる新本社・物流センターの建築を開始しました。(2階建・延床面積8,973.73㎡、2018年11月オープン予定)



(株)スワロー急送

上場関係

東証・名証第一部銘柄に指定されました。

2017年3月に東証第二部へ上場を果たしましたが、その1年後となる本年3月20日に、東証および名証第一部銘柄に指定されました。これからも、エスライングループのさらなる発展に向け、全社一丸となって取り組んでまいります。



(株)エスライン

表彰関係

優秀安全運転事業所表彰を受賞！

岐阜県警より、職場ぐるみで安全運転・交通事故防止に努め、運転記録証明書の実績結果において一定の成果を上げた事業所として、優秀安全運転事業所表彰を受賞しました。

金賞:エスラインギフ1部門・1支店
銀賞:エスラインギフ1部門・2支店
銅賞:エスラインギフ4支店
スワローセキュリティサービス本社



(株)エスラインギフ・(株)スワローセキュリティサービス

東京証券取引所および名古屋証券取引所 市場第一部銘柄に指定されました！

当社は、昨年3月10日、会社設立70周年にあたる記念日に東京証券取引所市場第二部へ上場を果たし、その1年後の本年3月20日に、東京証券取引所および名古屋証券取引所市場第一部銘柄に指定されました。



上場通知書贈呈



2階オープンプラットフォームへ



山口社長による打鐘



上場日の電光掲示板「チッカー」

東京証券取引所での上場セレモニーは2年連続でしたが、今回は名古屋証券取引所でも上場セレモニーが開催され、二重の喜びとなりました。



上場通知書贈呈



上場通知書



名証上場企業プレート

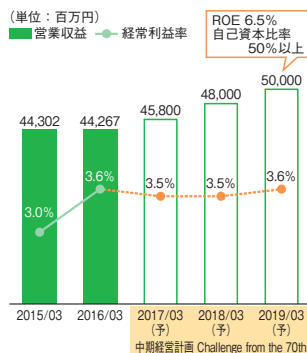


上場日の名証電光掲示板

これからも、一部上場企業として恥じないよう、社会的責任を自覚し、さらなる業容拡大と企業価値の向上に向けて取り組んでまいりますので、株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

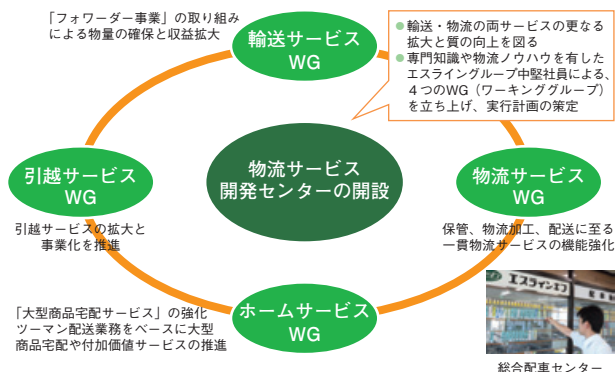
中期経営計画「エスラインブランドの確立に向けて」

経営目標



	2019年3月期 (最終年度)
営業収益	500億円
経常利益	18億円
ROE	6.5%
自己資本比率	50%以上

基本戦略



2018年3月期の取り組み事項

■全体

重点項目

- 賃金制度の見直し
- ドライバーの確保
- 労働時間管理
- 車両事故防止
- エスライングループの事務作業の統一化

結果

- 若年者、ドライバーの賃金制度の見直し
- 研修の強化、オートマチック車導入を推進
- 通信型デジタルタコグラフからの時間データの活用
- ドライブレコーダーの活用による事故防止
- 人事管理システム、資金運用システム、債務システムを導入

■物流関連事業

重点項目

輸送サービス

- 運賃改定
- 「総合配車センター」による最適配車とフォワーダー事業による収益拡大
- 運行効率と作業効率向上による収益拡大を図る
- モーダルシフトの導入

ホームサービス

- 「大型商品宅配サービス」の強化
- 引越ブランド「スワロー引越便」のPR活動
- 単身者向け引越、事務所引越の拡大
- 「研修センター」の開設

物流サービス

- 衣料品関連の商品保管・加工・配送までを請け負う総合物流サービスの獲得

結果

- 運賃改定を実施（5億6,100万円の実績で収益増に寄与）
- 「総合配車センター」は体制が整わず、十分な成果を得られず
- 貸切輸送の積極的取り組み（4億6,400万円の実績増）
- モーダルシフトの導入（岐阜→九州 週末の週2便）

- 家具量販店の販売好調により配送・設置業務が増加し、配送料金の値上げも収益増に寄与
- エスラインギフ家電物流事業部でユニック車3台導入
- 「スワロー引越便」の拡大に注力（2億4,000万円の実績）
- 「研修センター」で当社グループ各社から営業マンや配送スタッフを集めた講習会を実施

- 大手流通グループの専門店向け商品、量販店向けアパレル関連商品の加工業務の増加
- カーディーラーとタイアップし、夏冬タイヤ保管とタイヤ入替時の配送サービスを岐阜地区で開始

会社の状況 (平成30年3月31日現在)

会社概要

社名	株式会社エスライン
英文社名	S LINE CO.,LTD.
設立	昭和22年3月10日
資本金	22億3,773万1,515円
上場取引所	東京・名古屋証券取引所 市場第一部
本社所在地	岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地 電話 (058) 245-3131 (代表)
従業員数	2,100名 (連結)

役員

代表取締役社長	山田 彦三
取締役副社長	口瀬 嘉博
取締役	村桑 白
取締役	加藤 孝
取締役	青木 浩
取締役	堀江 繁
取締役	村瀬 明
取締役	笠井 大忠
取締役 (常勤監査等委員)	辻 上
社外取締役 (監査等委員)	中 村
社外取締役 (監査等委員)	岡 本
	嘉博 孝 浩 繁 明 大忠
	彦三 武一 幸治 介範 正実

グループ会社一覧



株式の状況（平成30年3月31日現在）

株式の状況

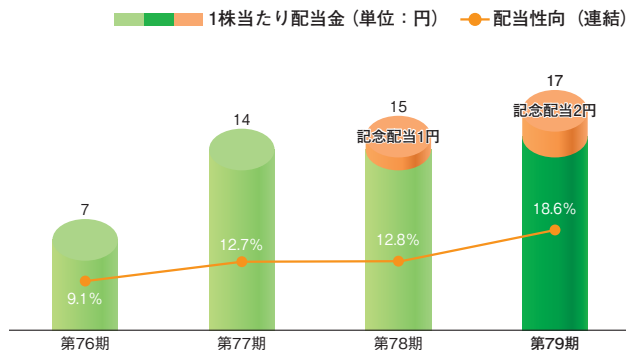
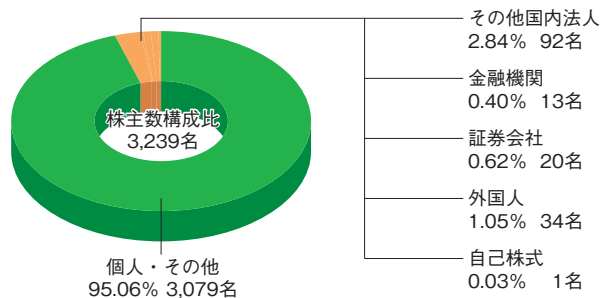
発行可能株式総数	40,847,000株
発行済株式の総数	11,095,203株
株主数	3,239名

大株主の状況（上位10名）

株主名	持株数 千株	持株比率 %
有限会社美美興産	1,323	11.92
株式会社大垣共立銀行	500	4.51
みずほ信託銀行株式会社	500	4.50
株式会社十六銀行	493	4.45
エスライン従業員持株会	401	3.61
株式会社三菱東京UFJ銀行	385	3.47
王子運送株式会社	364	3.28
明治安田生命保険相互会社	363	3.27
株式会社市川工務店	320	2.88
村瀬博三	311	2.81

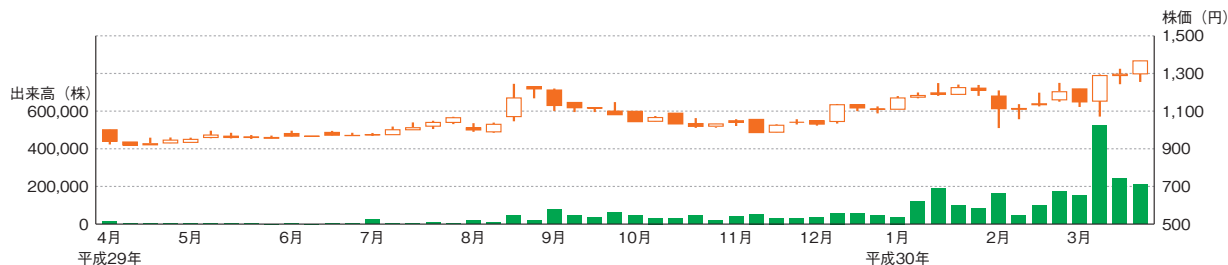
※株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。

株式分布状況



※当社は、平成27年10月1日を効力発生日として普通株式2株を1株の割合で株式併合を実施いたしました。これに伴い、第76期の期末配当につきましては、当該株式併合の影響を考慮すると14円となります。

株価の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当基準日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 公告掲載URL http://sline.co.jp/ ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に 口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱できませんので、ご了承ください。 みずほ証券 本店、全国各支店 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取扱いたします。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行（※）およびみずほ銀行の本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります） （※）トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵送物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。 証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

株主優待制度について

- (1) 対象となる株主様
毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上を保有する株主様を対象といたします。
- (2) 贈呈品および贈呈時期
毎年、定時株主総会終了後の6月下旬に、1,000円分のQUOカードを、「定時株主総会決議ご通知」とともにお送りいたします。



QUOカードイメージ

ウェブサイトのリニューアルいたします！

今夏、エスライングループのウェブサイトの大幅リニューアルを予定しております。

デザインを一新し、動画を多く使用することで、皆様にイメージがダイレクトに伝わるようにするとともに、お客様が望まれている情報ページへ、法人・個人のお客様別に、分かりやすい言葉・メニューボタンで、スムーズに誘導できるようにいたします。

また、普段からアクセス数の多いページへは、どの画面にいてもリンクできるようにして、ストレスのないウェブサイト構成へと変更いたします。

新たなステージで走り続けるエスライングループの新ウェブサイトには、是非ご期待ください！

当社ウェブサイトTOPページ

株式会社 エスライン

〒501-6013 岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地
TEL：058-245-3131 FAX：058-240-4850
<http://sline.co.jp/>
当社ウェブサイトも、ぜひご覧ください。

エスライン

検索

